



紅毛 奇方 妙ありひこ代廿四文

色の白くある 妙薬

この妙ありひこ代廿四文の奇方ありその薬法都て御顔肌皮膚の
奇効ある薬種のを調合し方洗粉の極製あり小三馬年来た
ゆゑその神妙不測のそめあり平生かきと用ひあはらまれば
いろやど色くろくさあありさ此方あて神効をあらとさあま
ふふし俗に顔肌皮膚のあがら紙さる是は蘭名もあれど人のあま
おまひ或は内風呂あせあふ対う又い手水をついあふ度あふの
妙ありひこ代廿四文のあふぶいづれ用ひあはらまれば玉の如くひり
皮膚雪の如く清らありしゆ白ひけあはらまれば自ら艶潤ひとほ
白粉をつけずして由顔奇麗にぬるること妙也世ふあたらひの薬
あまこありといへどもこの妙ありひこ代廿四文は用ひあは
らまればその効能をまらあべし 式亭小三馬 欽白(小三馬)

本家製法所江戸本町三丁目 式亭小三馬製

